

燃やせるごみ組成分析調査状況一覽

* 収集地域 市内全域

資料1

〔 青梅線以東地区: 神明台3・4丁目、双葉町、富士見平、五ノ神、緑ヶ丘、栄町地区
 青梅線以西地区: 川崎・玉川・清流、羽東、羽中、羽加美・羽西、小作台地区 〕

* 収集日 平成21年6月19日(金)・25日(木) 晴れ

	種 類	21年度 収集量 (kg)	種類別 割合 (%)	20年度 収集量 (kg)	種類別 割合 (%)	19年度 収集量 (kg)	種類別 割合 (%)	21年度 割合 (%)	20年度 割合 (%)	19年度 割合 (%)
1	紙ごみ(資源化できる)	40.38	62.75	15.20	61.14	30.04	63.97	10.09	7.67	10.02
	(資源化できない)	23.98	37.25	9.66	38.86	16.92	36.03	5.99	4.87	5.64
2	容器包装プラスチック (資源化できる)	13.50	94.80	6.98	92.08	15.02	97.41	3.37	3.52	5.01
	(資源化できない)	0.74	5.20	0.60	7.92	0.40	2.59	0.19	0.30	0.13
3	古布(資源化できる)	7.00	53.76	2.82	46.53	3.34	59.01	1.75	1.42	1.11
	(資源化できない)	6.02	46.24	3.24	53.47	2.32	40.99	1.51	1.63	0.77
4	生ごみ	210.98		143.22		205.44		52.75	72.24	68.48
5	軟質プラスチック 電磁的記録媒体	3.28		1.44		1.54		0.82	0.73	0.51
6	その他	91.64		13.88		22.86		22.91	7.00	7.62
7	指定袋	2.48		1.22		2.12		0.62	0.62	0.71
	計	400.00		198.26		300.00		100.00	100.00	100.00

○ 紙ごみ中の資源化できるものの割合は62.75%で、容器包装プラスチック中の資源化できるものの割合は94.80%で、古布中の資源化できるものの割合は53.76%であり、依然として資源化できるものの割合が高いため、今後も継続的に分別の徹底を市民に周知し、燃やせるごみの減量を図る必要がある。

○ 生ごみは、52.75%と依然として全体のごみの割合からすると高いが、年々割合が減少しているのは、食物残渣の減量意識と水切りの徹底が市民に浸透しつつあることから、減少しているものと推測される。

○ 平成19年4月から燃やせるごみに変更した「軟質プラスチック製品」と「電磁的記録媒体」の割合は全体の1%以下であることから、分別変更による燃やせるごみ量への影響は少ないと推測される。

○ その他(靴、かばん、ぬいぐるみ、ゴム製品、木材、割りばしなど)の混入率が増加しているのは、以前は誤って燃やせないごみとして排出されることが多かった靴やかばんなどが、市民が適正に分別を行うことで、燃やせるごみとして正しく排出するようになったものと推測される。

燃やせるごみ組成分析調査比較(青梅線以東地区・以西地区)

* 収集地域 市内全域(青梅線以東・以西地区)

* 収集日時 平成21年6月19日(金)・25日(木) 晴れ

	種 類	青梅線 以東地区	東地区 割合(%)	種類別 割合(%)	青梅線 以西地区	西地区 割合(%)	種類別 割合(%)	市収集量(kg)	割合(%)
1	紙ごみ(資源化できる)	19.18	9.59	65.46	21.20	10.60	60.47	40.38	10.09
	(資源化できない)	10.12	5.06	34.54	13.86	6.93	39.53	23.98	5.99
2	容器包装プラスチック (資源化できる)	5.46	2.73	92.86	8.04	4.02	96.17	13.50	3.37
	(資源化できない)	0.42	0.21	7.14	0.32	0.16	3.83	0.74	0.19
3	古布(資源化できる)	3.80	1.90	54.28	3.20	1.60	53.16	7.00	1.75
	(資源化できない)	3.20	1.60	45.72	2.82	1.41	46.84	6.02	1.51
4	生ごみ	114.28	57.14		96.70	48.35		210.98	52.75
5	軟質プラスチック 電磁的記録媒体	2.54	1.27		0.74	0.37		3.28	0.82
6	その他	39.66	19.83		51.98	25.99		91.64	22.91
7	指定袋	1.34	0.67		1.14	0.57		2.48	0.62
	計	200.00	100.00		200.00	100.00		400.00	100.00

○ 青梅線以東地区と以西地区の、紙ごみ中の資源化できるものの割合を比較すると、東地区は約65%、西地区は約60%で、資源化できるものの混入率に大きな差はなかった。

○ 青梅線以東地区と以西地区の、容器包装プラスチック中の資源化できるものの割合を比較すると、東地区は約93%、西地区は約96%で、資源化できるものの混入率に大きな差はなかった。

○ 青梅線以東地区と以西地区の、古布中の資源化できるものの割合を比較すると、東地区は約54%、西地区は約53%で、資源化できるものの混入率に大きな差はなかった。

○ 青梅線以東地区と以西地区の、資源化できる「紙ごみ」「容器包装プラスチック」「古繊維」の合計を比較すると、東地区は14.22%、西地区は16.22%で、資源化できるものの混入率に大きな差はなかった。

○ 青梅線以東地区と以西地区の、燃やせるごみ中の生ごみの割合を比較すると、東地区は約57%、西地区は約48%であり、今回の調査では地区別では割合に差が出た。しかし、燃やせるごみの中の生ごみの割合は、平成19年度調査時から、依然、大きな割合を占めている。

○ 青梅線以東地区と以西地区の、軟質プラスチック・電磁的記録媒体の割合を比較すると、東地区は1.27%、西地区0.37%で、混入率に大きな差はなかった。